

薬学実習 1

責任者・コーディネーター	分析化学分野 藤本 康之 准教授		
担当講座・学科(分野)	分子細胞薬理学分野、分析化学分野、機能生化学分野、生体防御学分野		
対象学年	2	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	後期		
単 位 数	3 単位		

・学修方針（講義概要等）

薬学実習 1 では、機能形態学、分析化学、生化学、微生物学に関連する各講義で学ぶ事柄や、各専門分野において必要となる知識と技能について、実験を通じて理解し身につける。また、実験結果を総合的に考察し、レポートを作成する能力を育成する。さらに、製薬企業の工場を訪問し、製剤と創薬の現場を見学することにより、製薬業務とその社会的責任・倫理についての理解を深め、医療や医薬品を巡る社会的な動向について意識する態度を身につける。実習と工場見学をリンクすることで、薬学部で学ぶ知識や手技が現場において重要であることを理解し、主体的に学ぶ姿勢を習得する。

・教育成果（アウトカム）

機能形態学、分析化学、生化学、微生物学に関連する各講義で得た専門的な知識と技能について、実習を通して体験学習しながら統合的に考察することにより、機能形態学、分析化学、生化学、微生物学に関する実験技法を修得できるようになるとともに、実験結果をもとにレポートを作成できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：7,8)

・講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/2	月	1	分析化学分野	藤本 康之 准教授	薬学実習と工場見学のガイダンス 1. 薬学実習・工場見学の意義と注意点を説明できる。 場所：西 106 1-F 講義室 事後学修：実習と工場見学の注意点を確認し、準備を整える。
9/2	月	2	分子細胞薬理学分野	奈良場 博昭 教授	基本的操作の習得 1. 顕微鏡を正しく取り扱うことができる。 事後学修：顕微鏡の使い方について、資料を確認する。
11/14	木	1・2	分析化学分野 機能生化学分野 生体防御学分野	藤本 康之 准教授 關谷 瑞樹 准教授 錦 織 健児 助教	工場見学【フィールドワーク】 1. 製薬業務とその社会的責任・倫理について説明できる。 2. 薬学部で学ぶ知識や手技が現場に

					<p>において重要であることを説明できる。</p> <p>事前学修：見学先の企業理念や製造している医薬品について調べる。</p> <p>事後学修：工場で見聞したことと、これまでに大学で学んだことを関連付けつつ報告書を作成する。</p>
--	--	--	--	--	---

・ 成績評価方法

全日程の出席と各分野の担当する実習全てに合格することが必要であり、実習ごとに 100 点満点での成績を算出し、その平均点をもって評点とする。ただし、一つでも不合格となる実習がある場合は、不合格となった実習の成績をもって最終評点とする。

・ 特記事項・その他

担当分野からの指示が記載されている場合は、それに従うこと。記載がない場合は、各実習時期に担当分野の指示に従うこと。実習という性質上、授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は実習毎に異なるため、その内容については担当分野から指示がある。

- ・ 実習内容に関連した企業の工場見学を下記日程にて実施する。
11 月 14 日（木）1～4 限（調整中）。詳細については別途指示する。

・ レポート等の課題に対するフィードバック

レポート等の課題に対するフィードバックは、機能形態学、分析化学、生化学、微生物学、工場見学の各実習ごとに行われる。実習レポートの課題については、実習中に適宜フィードバックが実施される。提出されたレポートは添削が行われ、コメント等を付して返却される。実習中の質疑についても、実習中に適宜フィードバックが行われる。